

情勢報告（令和7年7月分）

中央東農業振興センター嶺北農業改良普及所

ユズの有機栽培化について提案しました～大砂子柚子生産組合研修会～



研修会の様子

6月26日、大豊町の大砂子柚子生産組合が研修会を開催し、生産者10名が参加しました。

普及所からは『嶺北地域の現状・課題と対応策(案)』と題し、栽培管理記録やアンケート調査の集計結果を共有し、課題の1つである搾汁用ユズの単価向上への対応策として、農薬不使用栽培から有機栽培への転換を提案しました。

また環境農業推進課からは環境保全型農業直接支払交付金等の紹介がありました。

生産者からは事業内容について様々な質問が寄せられたほか「県内の有機栽培先進地を視察したい」との意見も出され、取組に向けた意欲を高めることができました。

今後も普及所は生産者や関係機関と連携して、有機栽培化に向けた取組を推進していきます。

大豊町の水田を守っていくために ～大豊町穴内地区水稻栽培勉強会の開催～



勉強会の様子

7月6日、大豊町穴内地区で水稻栽培の勉強会を開催し、7名が参加しました。

普及所は、大豊町役場と連携し、資料をもとに水稻栽培における基本的な水管理、雑草や病害虫の防除、穂肥の施肥、収穫適期について説明し、ほ場で現在の生育状況や今後の管理について指導しました。

現地ほ場では、普段疑問に思っていることについて活発な意見がだされたり、斑点米カメムシ類の実物をみて、防除に努めるよう助言しました。

普及所は、今後も関係機関と連携しながら大豊町での水稻栽培について支援していきます。

甘とうの出荷、はじまりました！ ～土佐甘とう部会目慣らし会を開催～



出荷規格を確認する生産者

嶺北地域では例年並みの6月上旬から土佐甘とうの出荷がはじまり、土佐甘とう部会は6月24日に目慣らし会を開催しました。

3名の生産者が参加し、出荷規格や見落としやすい尻ぐされ症の初期症状を確認しました。

普及所からは高温期のかん水管理や尻ぐされ症の原因と発生を防ぐ管理、熱中症対策等を説明しました。生産者からは「尻ぐされ症はカルシウムを追肥するだけで軽減するのか」、「熱中症の初期症状はどのようなものか」等の質問が出され、それぞれについての意見交換が行われました。

嶺北地域の土佐甘とうは7月から本格的な出荷の時期を迎えます。普及所では今後も安定出荷に向けて指導を続けます。

「れいほく八菜」を学ぼう！！～出前授業 大川中学校



パプリカハウスで収穫体験をする生徒たち

7月8、9日、普及所は大川中学校2年生8名に対し、「れいほく八菜」の出前授業を行いました。

普及所からの管内小・中学校への呼びかけに対し、大川中学校から希望があり実施したもので、普及所は、企画・運営及び講義の講師を務めました。

初日の8日は大川中学校の教室で、「れいほく八菜」の栽培やI P Mなどの取り組みを講義し、翌日9日は、本山町のパプリカハウスと土佐町の米ナスハウスで、現場研修を行いました。参加した生徒は、ハウスでの収穫体験や、天敵昆虫の観察などで、嶺北の農業を体感してくれたようでした。

普及所は今後も「れいほく八菜」のPRを行うとともに、後継者の育成につながる活動を続けていきます。